

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670101161		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー小姓町		
所在地	山形県山形市小姓町7番15号		
自己評価作成日	平成23年 9月30日	開設年月日	平成14年 7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 23年 11月 21日	評価結果決定日	平成23年 12月 5日

(ユニット名:すみれ)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人のペースで生活できるようにしています。リビングで過ごす方、居室で過ごすことが多い方、一人一人の過ごし方を尊重しています。その中で、出来ることをやっていただきながら、生きがいがつながつたり、他者とコミュニケーションがとれ、交流できたりし、毎日ゆったり、穏やかな時間が流れています。そのような雰囲気から継続しながら、入居者様の生活にそっと寄り添っていきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山形市の中心地に位置する事業所は、既存建物を利用しているため多少の不便はあるものの、職員等が工夫し段差を少なくし、見守りや寄り添うことを大切にして安全を確保している。管理者等は様々な課題や問題意識を職員と共有し、理念に掲げる「人間として尊厳や権利を守り、最後までその人らしいあり方」を目指し、介護計画やモニタリングを通して役割や楽しみごとの支援等利用者それぞれの暮らしを大切に「その人らしいあり方」を目指している。また、地域に広報誌を回覧し事業所に対する理解を高めると共に、地域の社会資源の活用を大切に第2の理念である「地域と・・・共にある・・・こと、地域の一員として暮らすこと」を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○ 2. 数日に1回程度
			3. たまにある			3. たまに
			4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳や権利、個性を尊重しながら地域の中で安心、安全な生活が継続出来るように、ホーム独自の理念を事務所入り口に掲示している。ユニットでも常に確認できるように掲示シケアに取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を実践する為にユニットそれぞれがその個性を活かした目標をスタッフと共に話し合いの上作成している。管理者は、ユニット会議等で職員の実践状況を振り返り、それぞれの課題を確認しつつ理念の実現に向け日々努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶を交わしたりお話しをしたり日々行っている。資源回収への参加や町内のお祭り見学、事業所での行事への参加のお誘いなども行って利用者の方々も一緒に交流出来る機会を作っている。また食材などは近所のお店から配達してもらったり取りに行ったりと交流の機会も作っている。	町内会に加入し、地域の様々な行事に参加すると共に、地域資源の活用や保育園との交流等地域との付き合いを大切にしている。また、事業所の広報紙を地域に回覧することによって事業所の生活の様子や取組等の理解を得ると共に、日常の挨拶等普段の係わりの中で親しみやすい環境を築き、地域との日常的な交流に向け努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報誌を作成し、地域の方々に配布し、ホームの生活の様子や取組を理解して貰えるように取り組んでいる。又、介護実習生の受け入れなど自治体への協力に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動状況や入居者、スタッフの状況等を報告している。又、自己評価や外部評価の結果を報告し、意見や要望等を取り入れてサービスの向上に活かすように努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や取組み、行事、震災後の対応、避難訓練等報告を行い、多くは無いが委員より意見を頂き、その意見にはユニット会議等で話し合いサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、介護相談員の来訪があり、サービス向上のため意見交換を行っている。市町村との協力関係を築けるよう努めている。	毎月介護相談員の訪問があり、意見交換が行われている。また、利用者等の個別の案件には、介護保険更新申請の際や生活保護受給者の状況を報告しながら、市の窓口と連絡し、助言を得る等普段から協力関係を構築するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外へ出入り出来るようにしている。入職時の研修に於いて、身体拘束についての説明を行い、拘束のない介護を実践している。	身体拘束はマニュアル等により職員に周知を図ると共に、個別の案件には日頃からユニット会議等で話し合い、安易な拘束を行っていないか、拘束に当たるような行為は無いかな職員間で確認し、原因分析を行い、身体拘束をしないで過ごせる工夫を行っている。職員は身体拘束に当たる具体的な行為を理解し、見守りを中心に安全を確保し安易な拘束を行わないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入職時研修に於いて虐待について説明を行い、虐待防止、発生防止に努めている。心理的な事や言葉遣いについてスタッフ間で話し合いの機会をもちながら注意していく必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の詳細については理解不足などところがあるので今後、研修会への参加や、学習する機会を確保する事が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行うようにしている。利用料金や緊急時の協力要請、契約解除等について、詳しく説明し、同意を得ている。また、家族会総会なども利用しながら説明の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との会話や態度から本人の思いを把握出来るよう努めている。又、毎月介護相談員の来訪があり、外部者へ表わせる機会を設けている。家族には、面会来所時に近況報告を行い、意見等を伺うようにしている。又、家族会を設けており、懇談会や行事等で家族から意見を頂いている。	利用者からは介護相談員を通して、また、家族からは家族会や毎月の面会時に意見や要望を表せる機会を確保している。また、職員は、行事への参加呼びかけや毎月の面会の機会等を大切に、家族等との信頼関係を築き、何でも言える雰囲気作りを心掛けている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット毎に毎月ユニット会議を開催し、スタッフ間で話し合った意見を聞き、活かすように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で、スタッフの希望等を聞き、活かすようにしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や県のグループホーム協議会主催の研修や交換研修に参加し、他事業所の方とも意見交換を行う機会を設けたり、ユニット会議等に研修の内容や情報などを共有出来る様にしている。スタッフが求めている事や力量を把握し、個別に指導を行ったり、勉強会の機会を設けるようにしている。	管理者は、積極的に職員をその力量やスキル、希望等を勘案し外部研修に派遣している。復命書の提出や、全体会議での発表を通して職員間での共有を図りサービスの向上に繋げている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に近隣事業所との交流を図っている。又、市や県のグループホーム連絡会主催の研修会や交換研修等に参加し意見交換を図り、サービス向上に繋がられるよう努めている。	系列法人事業所間での交流や、グループホーム協議会の研修、交換研修を通じて、同業者からの情報を得ている。特に交換研修は職員の派遣や受入れを積極的に行い、他事業所の優れた点を全体会議に諮りサービスの向上に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接で確認した内容をプランに反映させ、スタッフ間で情報を共有し対応できるように努めている。入居後は傾聴する姿勢を忘れずに対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始までの間に家族の不安や要望など聞きながら関係作りを行い、入居時には特に家族との話し合いを蜜にしている。入居後には家族が何でも言えるような雰囲気作りを心掛けている。挨拶など元気に明るく行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、スタッフとが話し合い「その時」に必要なと思われる支援を考え環境を整えた事がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得な事(縫い物や漬物作りなど)を活かす機会を設けながらお互いに支えあう場面が日々の活動の中で持てるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、情報を共有するよう努めている。協力体制を確保し、外出や行事への参加、受診等可能な場合には付添い等お願いし連携を図り本人を支えるよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでよく行っていた所に出掛けてみたり、近所に友達が面会に来たりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や外出時など入居者間関係を見極めながらスタッフが間に入ったりと配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になった利用者へお見舞いに行く事はあっても相談・支援まではいたることが無く、家族との関係継続や相互連絡は実践出来ていないと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でも言葉や表情からそれぞれの思いや希望等を把握するように努めている。毎月のユニット会議で個別ケアを検討し確認し、希望や意向の把握に努めている。	入居時に人生の歩みシートを作成しアセスメントに活かすと共に、入居後は日常のかかわりから得た思いや意向を人生の歩みシートやケース記録に記入している。それらを、ユニット会議等により職員全体に周知し、その人らしい暮らしの継続の為本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接時に本人や家族から生活歴や生活スタイル、趣味やサービスの利用状況等を聴き取り、情報の把握に努めている。写真をお借りして情報を聞いたり努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムを把握すると共に、表情や行動などからも本人全体把握するように努めている。生活の中の活動に参加してもらいながら本人の出来る事、好み、能力を見極めて把握するように努めている。重度化している方であっても出来る事はあるので見極めながら支援していきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でのスタッフの気付きや意見本人の思いを取り入れながらケアプランに活かすようにしている。家族の面会時や便り等で、本人の生活の様子を伝え、家族の意見や要望等を反映させるようにしている。	状況の変化があるときはその都度、定期としては3ヵ月ごとのモニタリング、6ヶ月で計画の見直しを行っている。職員間でカンファレンスを行いそれぞれのアイデアを活かしながら、利用者それぞれの「その人らしいあり方」を目指し詳細な計画の作成が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの事項はプラン番号を項目に落とし記録し、その方の発言やスタッフの対応など、細かく記入し、情報を共有している。又、連絡ノートを活用し情報をスタッフ全員が共有出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や商店の協力とご理解をいただき温かい目で迎えてくださり、入居者も安心満足される様子が伺えるようになってきている思う。地域資源の活用が年々出来てきていると感じているが今後ますますの活用をしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力も得ながら入居前のかかりつけ医院へ受診を行っている。近隣の医院変更する場合にもご家族と協議しながら対応している。緊急時などにも医院へ相談したりしながら柔軟に対応し健康管理を行っている。	入居前のかかりつけ医を大切にしながら、利用者及び家族と話し合い、緊急時に対応できる医院に変更する場合もある。通院支援で職員が付き添う場合には、医療機関への情報提供や受診結果等は個人の記録に残し家族等に報告し、医療機関、事業所、家族との情報の共有を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2名配置し介護職員と連携を図りながら、日々の健康管理を行い、体調の変化や急変があった場合には相談・指示を仰ぎながら対応できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的なお見舞いやご家族への連絡などを行いながら経過観察を行い、病院からの退院へ向けた相談など行っている。又、1ヶ月以上の入院治療が必要になるような際にはご家族、病院と連携を取りながら今後についての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りに関しての指針を定め、家族から同意をもらっている。状態の変化があるごとに、家族に気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、又、医療機関関係者と連携を図りながら、今後について検討するようにしている。	契約時に重度化した場合や見取りに関する指針について説明を行っている。状況の変化に応じて、家族等には事業所で出来ること出来ない事等を説明し、医療機関等には受け入れについての確認を行い連携を図りながら、看取り等の方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の講習を定期的に行いスタッフ一人一人が知識・技術を学ぶ機会を設けている。緊急時のマニュアルを作成しスタッフに周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難経路や誘導方法の確認、消火器の使用法等の確認を行っている。運営推進会議で報告なども行い、参加協力も要請し今年度は地域の方々にも参加・見学をしていただいた。今後も継続して連携を図っていけるようにしたい。今年度は夜間想定も実施予定している。	年2回避難訓練を行っている。今年度は夜間想定と消防署立会の避難訓練が計画されている。また、震災後ライフライン等を考慮した備蓄等も検討されている。	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等ができるよう、今後、地域への協力を呼びかけていくこと等を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格、性格に合わせ声掛け等に注意して対応している。	理念に掲げる「人間の尊厳や権利を守る」を大切にし、職員は利用者の気持ちを大切に受け止めながらそれぞれの意思を大切にしている。言葉掛けには普段から職員間で注意しあい、不適切な言葉掛けが無いよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で能力に合わせて自己決定する場面を作っている。意思疎通の困難な方であっても表情や反応を確認しながら理解するよう努め、強制的な支援にならないように留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己表現が出来る方に関しては本人の望むペースに合わせて支援出来ていると思うが、それ困難な方に関してはスタッフの都合に合わせた支援になっている部分もあるので今後本人のペースを大切にした過ごし方をしたい。ただけるように支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の長い方は毎日結び上げしたり時々化粧をする機会を作っておしゃれが出来るように支援している。外出の際にはその時々にあった服装が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力を見極めながら買い物から調理、片付けまで参加してもらう機会を作り、一緒に活動するように心掛けている。また、食材には旬の物を取り入れるなど工夫しながら食事の際の話題にし食事を楽しんでいる。	事業所内で3食調理し、特に夕食はユニットごとに利用者等の好みを反映させた献立とし、食事の準備や調理、後片付け等一連の流れに利用者も参加頂き、職員と一緒に会話や雰囲気大切にしながら、食事が楽しみなものになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は事前に管理栄養士にチェックして頂き、定期的に専門的にアドバイスを頂いている。摂取量が少ない方、飲み込みの悪い方等、一人一人の状態に合わせ、お粥やきざみ食、ゼリー等で対応している。水分量の少ない方については、ケアプランに立案し、職員の意識付けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、誘導を行いながら毎食後口腔ケアを実施しているが、口の開きが悪い方や上手くがいが出来ない方等にはハミングットを使用して支援している。義歯を使用している方には就寝前に義歯洗浄剤で洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意や便意など訴えない方もおられるが、表情や行動等を観察しながら少なくとも日中はトイレで排泄できるような支援を行っている。又、排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実践している。	排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、仕草等から、適時のさり気ない声掛けにより、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや水分を多めに取ってもらうなど支援しながら必要な方には下剤の調整など行って便秘にならないように支援している。朝食後に便座に座ってもらう等習慣で行ってもらうなどしている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週3回程度の入浴の機会を持てるように支援しているが、一人一人のタイミングに合わせた支援が出来ているとは言いがたい面もある。今後少しでも好きなタイミングで入浴できるよう支援していきたい。	多少の課題はあるものの、それぞれのタイミングや希望に応じて入浴支援を行っている。季節感を演出した変わり湯等も企画され入浴を楽しむことが出来る支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したりしながら夜間ゆっくりと休んでもらえるように支援している。寝付けない時には談話したり添い寝をしたりしながら安心して休んでもらえるように支援している。又、日中も身体状況や希望でいつでも休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスの無い様に薬チェック表と写真月の確認表を作り薬の準備、服薬に対応している。薬の変更等あれば申し送りや連絡ノート等でスタッフ全員に伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎晩晩酌を楽しむ方、歌の好きな方にはコンサートへ行ったり、花の好きな方には園芸を楽しんでもらったり一人一人の楽しみや趣味などを少しでも継続できるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる場所へのドライブなど、昼食も兼ねて出かけたりしている。個別的な対応についても、できる限り支援している。暖かい時期は日頃から食材を八百屋にとりに行ったり外出の機会を設けている。	行事としての外出や気分転換を兼ねた散歩、近隣への買物等外出する機会は確保されている。また、家族とのバスレクや家族の協力の下での墓参り、個別の馴染みの場所への訪問支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払い可能な方には買い物の際に支払いをしてもらっている。事務所で管理している方でもいつでも使える事を本人に伝え安心してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の会話の中で、本人の大切な人の存在を確認する機会ができていないと思われる。そのため、そのような機会を設け、何らかのアプローチをしていきたいと思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって懐かしい音楽を流したり、季節や行事に合わせた装飾品を飾る等、季節感を感じられるようにしている。また外出した際の写真などを飾ったりし思い出しながら話の種になったりしている。各居室も本人の使い慣れた物を置いたりし、環境作りに心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにベンチもあり思い思いに座って過ごすことが出来る。玄関ホールにもベンチがあり外出前や外出後に気の合う方々と座って少しお話していく方もいる。和室もあるが、なかなか上手く活用できていないので今後もっと活用していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物、馴染みの物を持ち込んでもらい、入居者の居心地の良さに配慮している。しかしまだまだ不足していると思うので、ご家族と連携を図りながら対応していきたい。	居室は利用者それぞれが使い慣れたものを持ち込み、飾り付けや家具の配置等利用者の好みに合わせて居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりやすいようにドアに名前を貼ったり、段差が分かるようにテープを貼ったり、入り口の電気をつけたりと一人一人に合った工夫をしている。		